

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	生野区
学 校 名	北鶴橋小学校
学校長名	川崎 菜穂子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北鶴橋小学校では、第6学年 19名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科においては、全国平均を0.8ポイント下回るものの、大阪市平均は1ポイント上回っている。算数科においては、全国平均を2ポイント下回っているが、大阪市平均とは同一の正答率となった。また、理科においては、全国平均を4.1ポイント、大阪市平均を2.1ポイント下回った。その一方で国語科、算数科、理科全てにおいて無回答率に関しては、大阪市・全国平均よりも約3ポイント低い結果となっており、最後まで粘り強く問題に取り組む姿勢が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語科は昨年、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率が全国平均を大きく下回った。これをふまえ、国語科の学習に関わらず、デジタル新聞を活用したり、言語活動を重視し、ICTを活用した情報教育の推進に取り組んできたことから、今年度の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は全国平均を2.5ポイント上回ることができた。

〔算数〕

算数科はどの領域についても全国平均を下回る結果となった。引き続き、少人数指導で個に応じた指導とデジタルドリルを活用し、苦手な課題に自主的に取り組むことができるようにする。基礎・基本の学習の定着を図る取り組みを更に推進していく必要がある。

〔理科〕

理科は「生命を柱とする領域」において大阪市・全国平均を約8ポイント上回った。しかし、その他の領域については大阪市・全国平均正答率を下回った。実験前の仮説や予想、また効果的に実験や観察を取り入れることにより、児童の興味・関心を高め、基礎・基本の定着を図ることができるように取り組む必要がある。

質問調査より

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問では、「当てはまる」と回答した児童が全国・大阪市平均を大きく上回った。さらに「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童と合わせると100%となり、否定的な回答をする児童はいなかった。昨年度の同じ質問でも肯定的な回答が100%であったことから、いじめを許さない集団作りが着実に育ってきていると考えられる。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」という質問では、「当てはまる」と回答した児童は大阪市平均を32.7%と大きく上回った。日頃から様々な教育活動で「話し合う」活動を取り入れ、実践している結果と言える。今後も継続的に取り組んでいく。

今後の取組(アクションプラン)

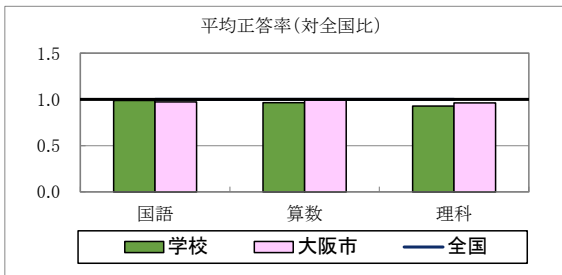
国語科・算数科の学習を中心に、基礎的・基本的な学習の定着を図り、個に応じた指導を行うため、引き続き少人数学習を行っていく。理科においては、観察・実験を重視した取り組みを推進し、児童の探求心を高めさせることを通して、学習に意欲的に取り組ませたい。また、全学年でICT機器を効果的に取り入れた授業づくりを行い、児童が主体的に学習できるように更なる工夫を重ねていく。

授業力向上は児童の「わかるよろこび」につながる。授業力向上をめざして、更なる教員の資質向上を図るため、ICT実技研修をはじめとした各種研修会や、授業研究会を計画的に実施していく。こうした取り組みにより、児童が「わかるよろこび」を実感できる授業を推進していく。

【 全体の概要 】

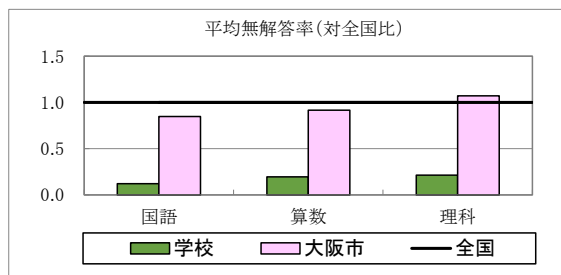
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	66	56	53
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	0.4	0.7	0.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



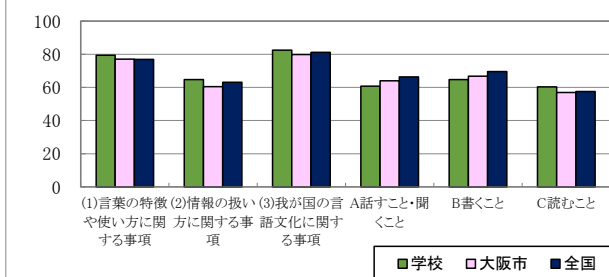
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	79.4	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	64.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	82.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	60.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	64.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	60.3	56.9	57.5

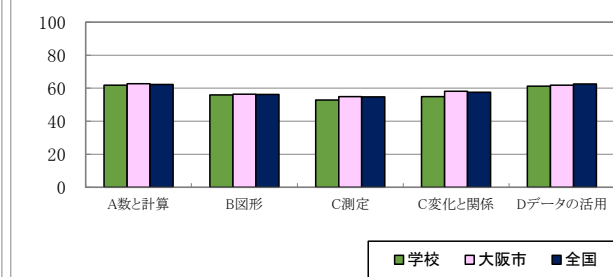
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.8	62.7	62.3
B 図形	4	55.9	56.4	56.2
C 測定	2	52.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	54.9	58.2	57.5
D データの活用	5	61.2	61.9	62.6

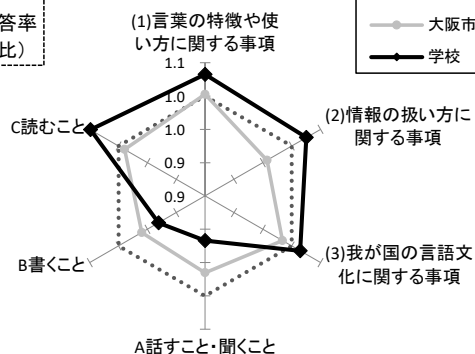
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



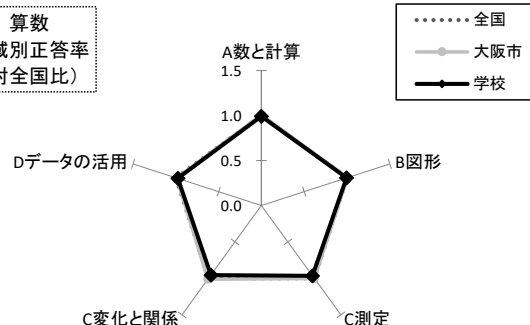
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

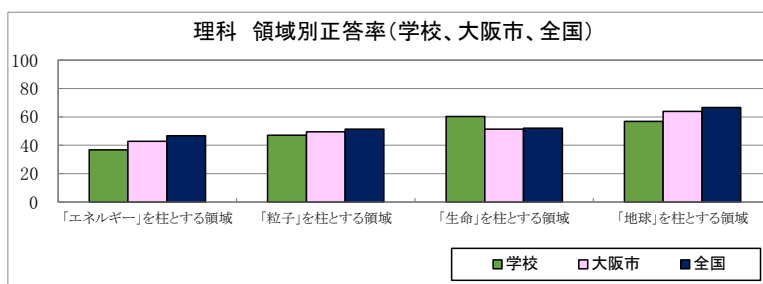


算数
領域別正答率
(対全国比)

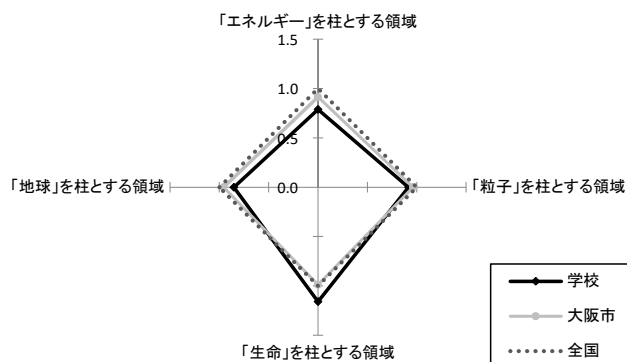


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	36.8	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	47.1	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	60.3	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	56.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



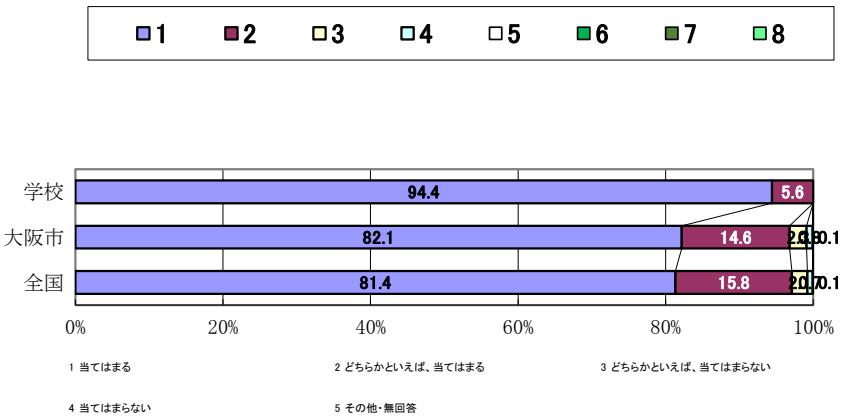
児童質問より

質問番号
質問事項

9

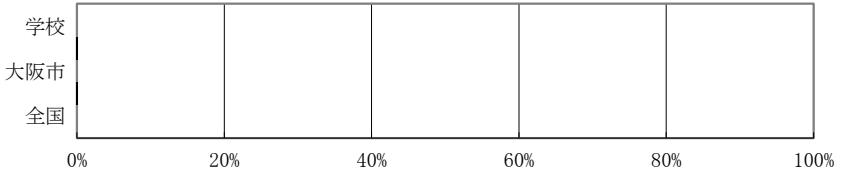
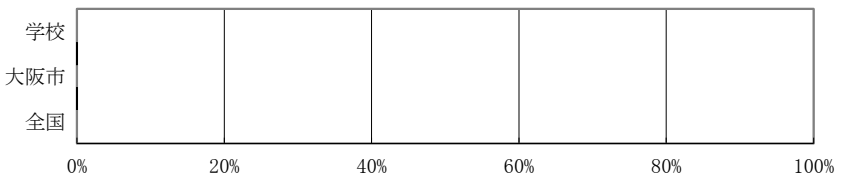
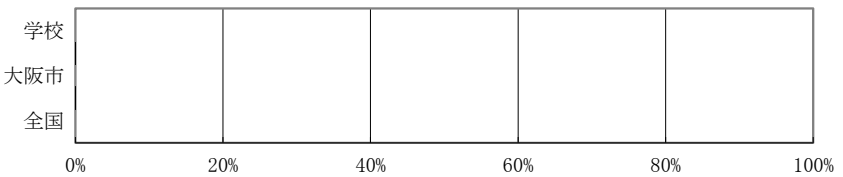
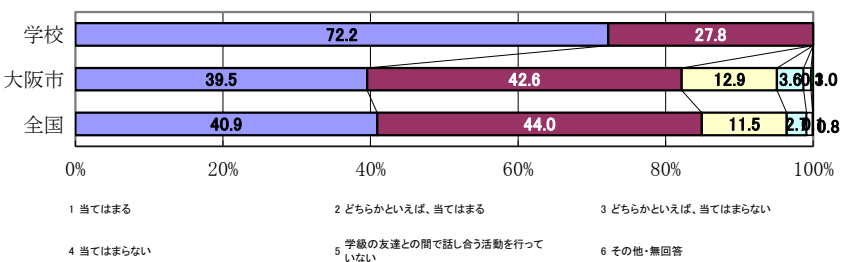
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

質問番号

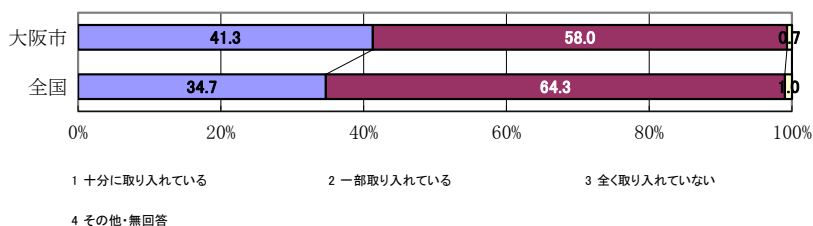
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化
(事務の軽減)の優良事例を
十分に取り入れていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

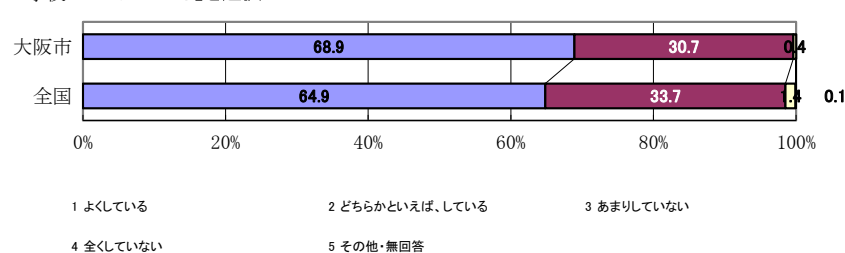
学校 「十分に取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実
践的な研修を行っていますか

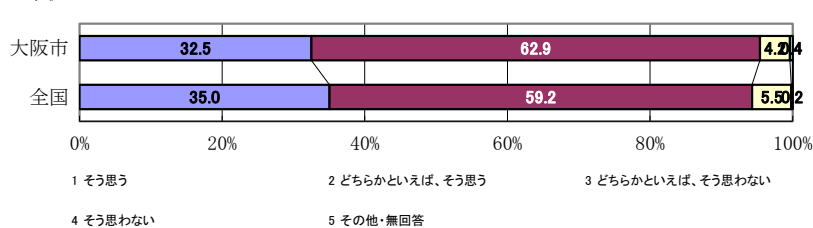
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業
や学校生活では、友達や周り
の人の考えを大切に、お
互いに協力しながら課題の解
決に取り組んでいると思いま
すか

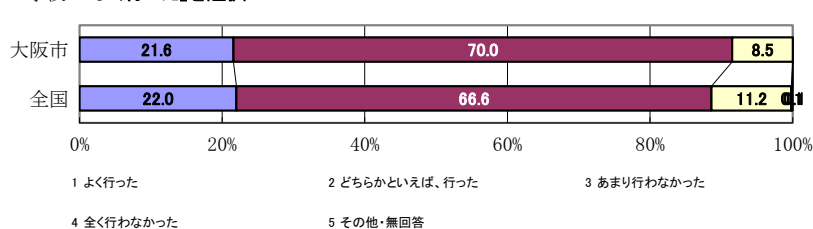
学校 「そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対し
て、前年度までに、習得・活用
及び探究の学習過程を見通し
た指導方法の改善及び工夫
をしましたか

学校 「よく行った」を選択



学校 「」を選択

